

下山清

かぶせや

歌人。昭和二十一年五月一日北洋漁港北洋國校畢業生港

生れ、昭和八年十一月十六日没（一九三一）。久保ミエの私生兒といふ生れ、幼いころ聾（ろう）の両眼亦失明（じめい）の障害（あひ）つた。小學四年の頃
が一過（ひとくわ）り、聾書（ろうしょ）作家（げきしゃ）・圖書館（としょかん）、知人の藏書（くわう）を禮（れい）故（ご）、「萬葉集（まんげいしゆ）」、
「古今集（こきんしゆ）」を始め、伊藤左千夫（いとうさちゆう）、平賀節（ひらかせつ）の歌（うた）を学（おとづ）め、その才（才能）を發揮（ひらめく）した。
語（ご）ことじら。母（めの）の死後放浪（ほうろう）、岩手県（いわてけん）伊藤（いとう）山田（やまだ）に住（すむ）つて、婦
人（じん）白キタ（しろきた）（妻（めの））を知（し）り、彼時（そのとき）の世（よ）界（かい）を絶（ぜつ）めた。その間（あいだのあいだ）、
父（ちち）のく社（くしゃ）同（どう）入（いり）の小田島（おだしま）孤舟（こふね）、關德潤（せんとくじゅん）（登火也（とうひや））等（そなへ）と親父（おじ）、大
正（たいせう）十一年（じゅういちねん）には小田島草歌（おだしまくわう）（つむぎ草火（つむぎくわ））の謄写版（とくしょばん）歌集（うたのしゆ）（つむぎ出版
草山（くわやま）と改題）を創刊（そうかん）し、野坂桂（のざかけい）の名（な）で謄写版（とくしょばん）歌集（うたのしゆ）『萬葉大（まんげいだい）の歌（うた）』
を作（つく）つた。他（ほか）に歌集（うたのしゆ）『わくら葉（わくらは）』（昭和二年八月十五日（じゅうごにち）着手（しょくしゆう））、『下山（しもやま）萬
葉（まんげい）』、『下山（しもやま）萬葉（まんげい）』など。

その後（のち）二十年（じゅうねん）、再刻（さいこく）せられた『歌集（うたのしゆ）わくら葉（わくらは）』（昭和二十六年七月（じゅうがつ））に
江口和子（えぐちわこ）著（あらわ）せた『萬葉（まんげい）歌（うた）』（わくら葉（わくらは）歌（うた））など、『萬葉（まんげい）歌（うた）』等（そなへ）の執筆（しょくしょん）の大作（だいさく）、無五
言集（ごげんしゆ）の他（ほか）、詩家（ししゃ）の追憶（ついおく）記（き）、森（もり）北（きた）池（いけ）執筆（しょくしょん）「清（きよ）の生涯（じやうがい）」等（そなへ）附載（ふさい）。



歌集 わくら葉 下山 清

歌集 わくら葉 岩手町教育委員会編